

夢のかけはし



一人ひとりが
輝ける未来を創る

昭和50年生まれ。京都府出身。大学時代に阪神・淡路大震災を経験し、路上生活者支援ボランティアに参加したことがこの世界に入った原点。スクール生へ毎日の昼食に興味である料理の腕をふるう。西原2丁目在住。(45歳)

平成29年から、大隅地域で、不登校の児童や通信制に通う高校生、ひきこもりや生きづらさを抱える方々が安心して自分らしく歩んでいけるために、様々な支援事業を行っています。

平成20年のリーマンショックで表面化した失業者が抱える課題や生活背景の複雑さに、当時の法制度は対応できていませんでした。そこで、平成21年に内閣府がこの問題を解決する法制定を目指すプロジェクトを始め、その初期メンバーとして関わったのが、この仕事を始めたきっかけです。

活動の中で大隅地域を訪問する機会があり、公共交通機関の少なさに驚きました。私たちが目指した法制度は、全ての当事者を支援するためのものなのに、車を持つことが困難な方は自立はおろか、支援を受けることさえ困難ではないのかと悩まされました。法制定後もその心残りがあり、制度の狭間を埋め、民間機関として柔軟な支援の仕組みを作りたいと決意し、鹿屋市へ移住し起業しました。

大隅に知人も縁もなく、ゼロからのスタートでしたが、地域の方々の協力もあり、不登校児童のためのフリースクールを開設することができました。さらに今では、子どもから大人まで一貫した切れ目のない「訪問・送迎付き支援」を主体に、様々な民間企業と連携した、誰でも参加できる就労訓練や、

大隅で「自立支援事業」に取り組む

おおくら かずま 大倉 一真 さん

実際に現場で働くプロから直接学ぶものづくりワークショップ。また、自身で課題を発見し解決する実践型学習スタイルのグループワークなど、自分の考えをもって自分らしく生きる力を育成するため、多種多様な指導を行っています。

現在、大隅全体で不登校や自立できずに悩む方は3,500人以上いると言われています。地域の人材不足解消や経済活性化のためには欠かせない人財です。今後、一人でも多くの方の孤立を防ぎ、自立を支援していくために、行政とさらに連携を強めながら、この取り組みを大隅全域へ広げていきたいです。



【右】連携企業の現場で一定期間労働を行う就労訓練は全国初の取組事例。本人や企業へのサポートも手厚く行う。

【左】小・中学校で必須となるプログラミングの学習支援に組み込むなど、スクール生の個性に合わせた指導に尽力する。



9月15日(火) 9時5分から FMかのや に 大倉 一真 さんが出演